



講演を行う原教授

人口減少下のまちづくり考える

人口問題フォーラム



公開ディスカッションでそれぞれの持論を展開

人口問題フォーラム「人口減少下のまちづくり」が8月21日、町公民館で開催されました。

1960年の1万3千262人をピークに、その後減少に転じ、現在も減り続けている本町の人口。なぜ減っているのか傾向を分析するとともに、そのメカニズムを知り、今後のまちづくりに生かすのが目的です。町民の方など130人が集まりました。

初めに、札幌市立大学デザイン学部教授で日本人口学会の会長でもある原俊彦氏が「弟子屈町の人口と今後の将来を考える」と題して講演。人口の変化には市町村の個性が表れるとした上で「弟子屈町に限ったことではないが、今後も人口減少は避けられない。その中でまちをどのようになりたいのか、はつきりさせるべき。減少していく時代に合わせて、人が減っても住みやすさを維持する方策を考えることが重要」と話しました。

その後、原教授をファシリテーターに、徳永町長、須藤直武氏(美留和・町移住アドバイザー)、木名瀬佐奈枝氏(札友内・町総合計画評価委員)をパネリストに迎え「人口減少時代のまちづくり」をテーマに公開ディスカッションを展開。活発な意見が交わされ、参加した皆さんも熱心に聴き入っていました。

フォーラムの詳細は、広報てしかが10月号で紹介されます。

本町の馬が大活躍

第105回釧路種馬共進会



1席に輝いた守屋さんと桜姫号

平成26年度第105回釧路種馬共進会が7月28日、釧路農協連共進会場で開催されました。

本町からは4頭が出陳され、そのうち3頭が全道大会への切符を手に入れました。大会は全6部門からなり、本町から出品した4頭は全て、第1部(1才雌)への出陳です。

審査結果は次のとおりです。

▼第1部
▽1等賞1席/桜姫号(守屋博さん所有)
▽1等賞2席/桜花姫号(藤田千代さん所有)
▽2等賞1席/福姫号(藤田千代さん所有)

守屋さん所有の桜姫号は、各部1位による最高位決定戦に出馬しましたが、惜しくも最高位を取ることはできませんでした。

全道種馬共進会は、全道各地区の子選を勝ち抜いた優秀な馬たちが集う、4年に1度の一大イベントです。全道大会でのさらなる活躍を期待しています。

全道種馬共進会は、9月6・7日の両日、十勝農協連家畜共進会場(音更町)で開催されます。お近くにお出かけの際は、迫力ある馬たちの競演をご覧になってはいかがでしょうか。

町の話題



町の話題



町の話題

地元産新そばに舌鼓

第8回JA摩周湖農業祭 たぶん日本で一番早い新そば祭り



名人のそばを満喫(上)
新そばを求めて列をなす皆さん(下)

「達磨雪花山房」の高橋邦弘さんが妙技を披露したほか、そば店コーナーでは「摩周そば生産組合」達磨雪花山房「松風庵(釧路市)」が、弟子屈産のそば粉を使った、打ちたて、ゆでたての新そばを提供。各ブースの前には、摩周の新そばを求める方で長蛇の列ができました。

また、摩周メロンや牛乳などの地場農産物即売、吹奏楽やパトンの公演、牛乳の早飲みやドーナツ、摩周そばの早食いなど多彩なイベントも行われました。

JA摩周湖(川口覚組合長と摩周そば生産組合(猪狩昭組合長)が主催する「第8回JA摩周湖農業祭」が8月23・24の両日、JA摩周湖前で開催され、町内外から訪れた多くの方でにぎわいました。

そば打ち名人として名高い広島県



8月1日 第1便の出発



川湯駅のエコパスステーション

エコパスポートで環境に優しい旅を

摩周・屈斜路環境にやさしい観光交通がスタート

ポーターの販売を行います。ポーターは、役場環境生活課と川湯支所で購入できます。ぜひ、利用してみませんか。

弟子屈町地域公共交通活性化協議会(会長・徳永町長)が行う、弟子屈エコパスポート事業が、今年も8月1日に始まりました。

エコパスポート事業は、観光交通実証運行として2009年に開始。2012年度から町単独事業として本格運行しました。エコパスポートは、町内路線バスと摩周湖バス、屈斜路バス、期間限定ジャンボタクシーが、金額に応じて2:3:5:7日間乗り放題(乗り降り自由)というものの。昨年に引き続き町民専用エコパスポート(運行期間内、定額で乗り放題)も用意され、公共交通機関を利用した環境に優しい旅の提案と、地域公共交通の活性化を目指します。昨年は約2千人の方に利用いただき、好評を得ました。

今年も10月26日(日)まで、エコパス

バター作り体験などさまざまなイベントも